



にじ

新年のご挨拶 P2~7

| | |
|--|----|
| 山本治企業長 | P2 |
| 島田安博病院長、森田荘二郎副院長 | P3 |
| 福井康雄副院長、小野憲昭副院長・地域医療センター長 | P4 |
| 林和俊副院長・総合周産期母子医療センター長・医療安全管理センター長 | |
| 西田武司救命救急センター長 | P5 |
| 三宅陽一郎循環器病センター長(心得)、西岡明人がんセンター長 | P6 |
| 澤田健こころのサポートセンター長 | P7 |
| 高知医療センター イベント情報 | P8 |

1

JANUARY 2020 Vol.171



幸せを呼ぶと言われている天使の梯子(薄明光線)。皆さまにたくさんの幸が降り注ぎますように。 撮影：高知医療センター 藤川

高知医療センターの理念 — 医療の主人公は患者さん —

新年のご挨拶

迎春

2020年



企業長 山本 浩



新年あけましておめでとうございます。皆さまにおかれましては、健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、旧年中は高知医療センターに格別のご厚情を賜り感謝申し上げます。

県立中央病院と高知市民病院が統合して開院した高知医療センターは、本県の地域医療を担う中核的病院で、1日約800人の外来患者さんと460人の入院患者さんがいます。

「医療の主人公は患者さん」を理念として掲げ、それぞれの地域の病院、診療所から専門治療が必要な患者さんを紹介いただき、一定の治療が終わり、病状が安定すれば住み慣れた地域の医療機関などに逆紹介を行う、地域医療連携を基本とした高度で専門的な医療を提供し、高知県民・市民の皆さまから信頼され必要とされる病院になってきていると思います。

本年、東京オリンピックが開催される2020年は、高知医療センターは開院から16年目を迎えます。医療を取り巻く環境は大きく変化しており、地域医療構想の推進や医師の働き方改革への対応が求められています。

地域医療構想で求められている機能分化、役割分担としては、高知医療セン

ターは、高知県全体の高度急性期医療、政策医療の中核としての機能を担う病院として、その果たす役割は変わらないと考えています。

一方で、医師の働き方改革については、医師の健康確保と医療の質・安全の確保は表裏一体とされ、負担軽減のための労働時間の上限規制や健康確保措置が義務付けされていますので、医療センターの運営全般にわたって見直しを行う必要があります。

勤務体制の見直しに合わせて、患者さんへの説明時間や外来の診察体制の見直しなども避けられないと思います。ご不便をおかけすることもあるかと思いますが、事前にお知らせしながら実施していきますので、ご理解、ご協力をお願いいたします。

県民の皆さまの期待にしっかりと応えられるよう、職員一同努力を重ねてまいりますので、今年もご指導、ご支援をお願い申し上げます。



病院長 島田 安博



新年明けましておめでとうございます。旧年中は大変お世話になり、誠にありがとうございました。

令和元年の医療界は、地域医療構想、医師偏在是正、働き方改革など大きな変革の動きが始まりました。

高知医療センター開院から15年になりますが、時代の変遷とともに、疾病構造の変化、高齢患者の増加、人口減少、そして医療費の急増が認められ、従来の医療提供方法を再考することが必要となっています。病院経営では、昨年10月の消費税増税、今年4月の診療報酬改定など、次々と厳しい環境変化が起こっています。

地域医療構想では、高知県の病床過剰は正のために急性期病床を半減する必要があり、民間も含めて病床削減の調整が進んでいます。また、中央圏域以外では、医師不足(偏在)のために医療提供体制の維持が難しくなっており、当センターからも地域医療機関への診療支援(医師派遣)が始まりました。

医師をはじめ医療者の働き方改革についても、具体的な国の方針が示されました。従来の患者さんのために医師は犠牲を惜まずに尽くすという考えを改め、医師自身が労働者として一定の管理された労働時間内に効率的な診療業務を行えるように環境整備を行いながら自らの働き方を根本から見直すことが要求されています。



患者さんの高齢化も臨床現場に新しい課題を問いかけています。認知症、心不全などの高齢患者さんの終末期をどのように対応するべきかということです。従来の1日も長くという考えでなく、短くても満足度の高い医療を考えることが必要と思います。積極的な治療を断念するという選択肢をご本人とともに医療者は考えなければなりません。高齢化、人口減少という避けがたい社会変化に伴い、現実的な医療とは何か、医療の目的は何か、医療者はもちろん、患者さん、ご家族も含めて回答を探ることが必要になってきています。



2020年はオリンピックで盛り上がることでしょうが、2019年ラグビーワールドカップでのONE TEAMのもとに集結した国籍や人種を超えた日本チームの成功が、地域医療再生のヒントになるかもしれません。

高知医療センター職員一同しっかりスクラムを組んで頑張ります。本年も何卒よろしく願い申し上げます。

副院長 森田 荘二郎



新年明けましておめでとうございます。旧年中は高知医療センターに多大なるご支援をいただきまして、誠にありがとうございました。

昨年は病院機能評価再受審を皮切りに、電子カルテシステムのリプレイス、厚生労働省による特定共同指導と、息をつく間もなく対応に追われました。職員一丸となって取り組み、全て無事乗り切ることができました(原稿を書いている時点では、まだ特定共同指導の指摘事項が届いていませんが)。

本年は、年頭から特定共同指導指摘事項への対応、そして診療報酬改定に備えなければなりません。それに加えて、歴代の執行部が先送りしてきた重大案件が、昨年から一気に噴き出してきており、現執行部は対応に苦労を重ねております。というのも、当院も開院して15年が過ぎ、開院当初は新進気鋭だった職員、特に医師達も高齢化が進み、来年4月には院長、私、麻酔科、ペインクリニック科、放射線科と多くの幹部職員が退官となります。また、今まで大学の医局に頼ってきた人事も、新専門医制度のあおりを受けてか、引き上げ、派遣中止が続発しており、もはや大学を頼れる時代ではなくなりつつあるのかもしれない。各診療科と執行部が協力一致



して、災害時以外でも病院機能継続計画MCP(Medical continuity plan)としての人材確保対策、すなわち自前での、初期・後期臨床研修医の獲得、教育環境の整備、幹部職員の育成を真剣に検討しなければなりません。

さらに、シームレスな地域連携医療と、そこで活用する電子カルテやPHR(Personal Health Record)を用いた「情報の輪をつなげる」活動も強化していく必要があります。昨年10月に稼働を開始した「高知あんしんネット」への協力を推進して、いついかなる時にも患者さんの医療情報が共有でき、安心して医療を受けていただけるようにしていかなければなりません。

いろいろ課題も山積みしておりますが、皆さま方のご協力をいただき粛々と取り組んでいく所存です。本年もご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



副院長 福井 康雄



新年明けましておめでとうございます。

旧年中には新元号「令和」の時代を迎えました。皇室行事が古来のしきたりに則り引き継がれたことは、国民の一人としてうれしいと共に心強く思っております。又、新天皇が国家の安寧を願い、正殿の儀に向かわれる真摯なお姿に心打たれました。

当院は平成半ばの17年に開院し16年目を迎えます。様々な課題がある中、これまでの高知医療センターの歩みは関係医療機関の皆さまのおかげであります。本当に感謝いたしております。

副院長としては、本年も医療機器・診療材料調整部門を担当いたします。開院からの年数が10年を超え、多くの設備修繕対象があります。同様に医療機器更新も計画されています。医療機器更新については利用状況を踏まえた対応が必要です。機器共有などの運用を導入して、できるだけ効率的な更新計画を行ってまいります。その前提として現場ヒアリングを行い納得感のある更新計画を目指します。又、診療材料についても収益改善の視点から取り組んでいく所存です。



一方、医療界における重大な課題の一つに「医師の働き方改革」があります。医師個人がこれまでの働き方を振り返った上で、適切な時間管理を実行することが重要です。とはいえ、医師数には診療科偏在があるため、負担軽減が困難な状況も認識しております。診療体制や診療科間調整を働き掛け、関係医療機関・患者さんにご迷惑をかけない様、取り組んでまいります。



医療を取り囲む環境は変化しさらに厳しくなると予想されます。地域医療の中で当院の果たすべき役割を認識し、希望のある新事業にも関わっていきたいと考えております。

この一年が皆さま方にとって素晴らしい年でありますよう祈念いたしますとともに、本年もさらなるご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

副院長・地域医療センター長 小野 憲昭



新年あけましておめでとうございます。皆さま、すこやかに新春をお迎えのことと存じます。旧年中は高知医療センターとの医療連携にご協力ご支援を賜り、まことにありがとうございました。私は副院長を拝命して1年9ヶ月、また地域医療センター長としては3年目となり、さまざまな面で皆さまに大変お世話になっており厚く御礼申し上げます。

この間当院では「病院機能評価受審」「統合情報システム更新」「特定共同指導」と大きな行事が続きました。開院より15年を経過する当院そのものを見直し、県民市民の皆さまのために当院がどのような病院となっていくべきか、地域医療機関の先生方とどう上手く連携してwin-winの関係を継続させることができるかを考えるよいきっかけであったと捉えております。

地域医療センターでは、地域医療機関との十分な連携、とくに、地域医療構想の一翼を担い分化した病院機能をそれぞれ発揮できる連携を意識し活動しております。しかし県民全体の人口減少・高齢化の波は大きく、当院も新規紹介・入院患者数の減少、入院患者高齢化等の変化

が見られますので、全体としてさらに地域医療連携をより密に進めていかなければならないと痛感しております。患者さんに高度かつ安全な医療を提供するために、職員には患者さん・ご家族と十分なコミュニケーションを取るよう指導し、高知県



立大学との包括的連携事業としてもコンフリクト・マネジメント研修を始めました。高知県の中核的な公立病院、高度急性期病院、地域医療支援病院として厚い信頼をいただけますように努めてまいります。

県内では昨年10月より、医療介護施設・薬局等と情報を共有して連携できる「高知あんしんネット」がスタートしました。当院ももちろん参加しています。県内の医療機関・介護福祉施設・薬局等と共に、患者さんのための連携を進めてまいりたいと思います。本年もご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

副院長・総合周産期母子医療センター長 医療安全管理センター長 林 和俊



新年明けましておめでとうございます。皆さまにおかれましては、穏やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。副院長として、新年のごあいさつを申し上げます。

総合周産期母子医療センターでは、母体年齢の高齢化、生殖医療技術による妊娠の増加に伴って、ハイリスク妊娠・分娩が増加してきています。高知県の年間出生数は徐々に減って4500人ほどになりましたが、ハイリスク症例の増加に伴い、新生児医療、小児外科のエキスパートがいる当院の役割は益々大きくなってきています。分娩施設は減少し続けていますので、県全体でのハイリスク症例のトリアージ(症例のリスクに応じた分娩施設の選択)も重要な課題となってきています。周産期医療は妊産婦のメンタルヘルスのことも含め、課題は多いですが、関係するスタッフで協力して参ります。

医療安全管理センターの役割は多々あります。医療安全を維持するためには①フオリティ・マネジメント②リスク・マネジメント③コンフリクト・マネジメントの3つの柱があります。この3つを



念頭に、医療者個人の技術的研鑽はもちろんのこと、チーム医療(単に多職種が存在しているのではなく、双方向性に情報共有、協働ができるチーム)の理解と実践が必要です。更に、医療者と患者・家族の埋めようのない「認知フレーム」の違いを受容し、「共感」を表明できるスキルを身につけなければなりません。これらは、生まれながらにして持っているセンスではなく、研修やシミュレーション、ロールプレイで身につけることができます。そういう考え方が必要であることを職員の皆さまに気づいていただけるような取り組みを続けて行きたいと思っています。

より良い病院になるよう、微力ながらもこの職責を果たしていくつもりですので、本年もどうかよろしく願い申し上げます。



救命救急センター長 西田 武司



皆さま、新年あけましておめでとうございます。新元号「令和」での初めての正月を迎えます。平成から令和へと元号が変わり少しでもより平和であるようにとの希望も込められています。しかしながら仕事柄、救急医療最前線で働き、災害訓練や災害の会議などにも関わっているためでしょうか、常に非常事態の状況を考えてしまいます。

ここ数年でも全国的、全世界的に自然災害による被害の報告が相次ぎました。国内では毎年、豪雨災害・台風災害が全国的に発生し、数年前の被害でも復興中の地域もあります。地震においても2016年の熊本地震、2018年の北海道胆振東部地震なども発生している状況です。いよいよ南海トラフ・首都直下地震への備えの必要性が強く訴えられています。特に高知県は南海トラフの最前線の県のひとつと想定され、高知県全体で南海トラフ地震に対する準備が行われています。

高知医療センターは高知県の3つの救命救急センターの一つとして、救急症例に対して全診療科の



協力のもとに救急車対応を中心の診療体制を構築・維持していますが、さらに高知県の基幹災害拠点病院として高知県・高知市あるいは種々の災害対策会議、災害訓練、災害教育などにも関係する方々とともに参画し、各種災害への準備にも協力しています。

平穏な年であることを願ってやみませんが、平穏であるためにはいざというときの備えをしっかりとしていくことも重要だと感じています。私は、九州から平成26年10月より赴任しておりますが、高知県に来てからことさら災害への備えの重要性を日々感じています。平穏な年を迎えるためにも、災害への備えを組織として、また個人としてもさらに進めて行きたいと思っております。

皆さま方の新しい年が平穏でありますように、賀正



循環器病センター長(心得) 三宅 陽一郎



新年明けましておめでとうございます。皆さまにおかれましてはどのような新年を迎えられたのでしょうか。きっとそれぞれの方がいろいろな意味で“素晴らしい”新年を迎えられたであろうことを願ってやみません。皆さんはこの節目にどのような目標をもたれましたか？

“素晴らしい”の意味はみなそれぞれと思いますが、新しい年を迎えられたこと自体が既にとっても素晴らしいことだと思います。昨年からは循環器センター長(心得)を拝任しましたが、高知医療センターに来られる循環器疾患の患者さんの治療に関われることに日々感謝し、微力ながらもそういう患者さんの今日と明日に尽力できることに感謝し、そして患者さんとともに闘う日々を心から感謝しています。そのような日々を送る1年を新たに迎えられたことを素晴らしいと思いますし、この“節目”は、「心新たに向き合うことを想う時」だと思います。

昨今こういった“節目”は年々薄れつつありますし、特別感も薄れつつありますが、それは損なっているものだと感じます。長期化してしまった患者さんもひとたび『目標』を見付け、その『目標』に

たどり着けそうに感じた時にみせる底知れぬ力に感銘を受けたことは、我々医療者であれば幾度となくあるはずで、『目標』を定め、それに向かって



いく力は人間が持つ素晴らしい特性の一つではないかと思えます。我々が行うべきことは適切な『目標』を掲げ、それに向かう現実的な道を示し、そしてそれに向かって努力することであり、これは自分自身にも、患者さんに対しても、そうだと感じます。



高知全体を考え、高知の全ての人々とその近隣の人々の健康を守り、育み、そして時には修正を加えるのが我々の仕事ですが、それをするにはあまりにも微力です。しかし、1本の矢では弱くても3本まとめれば相当強くなると言われています。これからは適切な協力関係が何より大切な時代になっていくと思えます。新しい年を迎えたことに感謝しつつ、高知全体の医療が適切に協力して良い方向に進展していくことを願い、一人でも多くの方が新しい年を迎えられ、そして、少しでも良い形で迎えられるように今年も継続的な目標と新たな目標に向かって、皆さまとともに邁進できることを祈念しております。

がんセンター長 西岡 明人



新年明けましておめでとうございます。旧年中は高知医療センターがんセンターに対しまして格別のご厚情を賜り、誠にありがとうございました。2015年4月からがんセンター長を拝命して5年弱、この間大過なく職務を全うすることができましたのも関係各方面の方々のご協力とご支援の賜と感謝しております。

高知医療センターは、2006年6月に制定されました「がん対策基本法」に則った体制の構築に努め、2008年2月に高知県で初めての「地域がん診療連携拠点病院」の認定を受けました。がんセンターでは地域がん診療連携拠点病院として、また、高知県におけるがん治療の最後の砦としての使命を全うするべく診療体制の整備・充実、診療実績の向上に努めております。

2017年4月に開院しました「がんサポートセンター」は、おかげさまで順調に稼動しております。1階の放射線治療部門では、年間300件程度の新規

放射線治療患者さんを治療しており、そのうちの半数近くに定位放射線治療(SRT)や強度変調放射線治療(IMRT)といった最新の放射線治療で対応しています。2階の核医学検査部門



では、年間1000件近いPET-CT検査を実施しており、院外からの紹介患者さんも徐々に増加しています。3階の外来がん化学療法部門では、明るくてゆったりとした環境で、年間5500件以上の化学療法を実施しています。また、4



階の「がん相談支援センター」および「緩和ケアセンター」では、年間400件以上の相談に対応するとともに、延べ人数にして5000人弱のがん患者さんの苦痛スクリーニングを実施しています。

高知医療センターがんセンターでは、このようながんサポートセンターでの充実したがん診療を中心として、さらにより良いがん治療を提供できるように頑張っていく所存でありますので、県民の皆さま方、医療機関の皆さま方をはじめとする関係各方面の皆さま方には本年も変わらぬご支援を高知医療センターとがんセンターに賜りますようよろしくお願い申し上げます。

こころのサポートセンター長 澤田 健



あけましておめでとうございます。皆さまに支えてもらい無事に新しい年を迎えることができました。昨年は、再開して間もない成人精神科病棟、児童思春期病棟の運営に多くのサポートをいただき、誠にありがとうございました。

昨年度、精神疾患の患者さんの身体合併症に対する治療で当センターを利用する患者さんが徐々に増えてきました。また、精神科救急輪番事業に参加するようになり、公立病院である当院のニーズに対応できる精神科医療体制を確立するようになってきました。さらに児童思春期精神科も、以前からの当院児童思春期外来とともに、高知大学からの派遣医師による外来も軌道に乗るようになってきました。このような状況のもと、不十分ながらも、精神科医師、看護師、コメディカルスタッフの体制を増強し、診療体制の充実を目指して努力をしておりました。他のセンター機能とは異なり、華々しい機材や新しい治療法があるわけではありませんが、良質な精神科医療を提供することと、優れた人材を育て高知県にとって新たな精神科医療の礎ができるように



高知県全体の医療の中で、存在感を持てる精神科医療を行うために、こころのサポートセンターは、さらに体制を整え、良質な医療の実施を行なっていきます。本年も昨年同様、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

今年度も努力をしていく所存です。

本年度、当院入院患者を対象とした院内デイケアを稼働開始することを計画しております。この院内デイケアは認知機能の低下した患者さんに対して精神科作業療法を行い、認知機能の維持や改善を図るものです。本年度中には、当院に入院する急性期の高齢者を対象として、本格的に開始しようと考えております。より良い急性期医療を提供できるように、こころのサポートセンターとして活動していきたいと思っております。




本年もどうぞよろしくお願いいたします

1/16 (木) **高知医療センター 看護局集合研修 他施設公開研修** 参加費無料・申込要

申込期限
1月6日(月)

内容：成人BLS / AED研修
講師：BLSインストラクター
場所：高知医療センター 2階 スキルズラボ室
時間：9：00～12：00 / 対象：看護師(3名)




申込用紙は当院ホームページ 看護局他施設公開研修よりダウンロードできます。必要事項をご記入の上FAXにてお申し込みください。申込代表者は看護部門の担当者様でお願いいたします。
お問合せ：看護局 教育担当 有澤・佐野・川田
TEL.088(837)3000(代) FAX.088(837)6766

1/19 (日) **高知新聞企業 医療とファイナンス講座 高知医療センター がんを知るセミナー** 参加費無料・申込不要

内容：①もっと身近な緩和ケア
／看護局 がん看護専門看護師 北添 可奈子
②抗がん剤の副作用とその対策(消化器症状、皮膚症状について)
／薬剤局 田中 広大

場所：高新文化ホール(高知新聞放送会館東館7階)
高知市本町3-2-15
時間：10：00～12：00
対象：一般(50名) 先着順



お問合せ・お申込み
高知新聞企業 セミナー係
TEL.088-825-4110(平日の9：30～17：30)

1/17 (金) **新しい糖尿病チーム医療** 参加費無料・申込不要


内容：ブラッシュアップ! チームで高めるCGM外来の進め方
講師：岡山済生会総合病院 内科 糖尿病センター
副センター長 利根 淳仁 氏
場所：高知医療センター がんサポートセンター 4階 研修室
時間：18：30～20：00 / 対象：医療関係者

お問合せ：糖尿病・内分泌内科 医療秘書 末松 TEL.088-837-3000(代)

1/25 (土) **「いのちについて考える」講演会 ひとが生まれるということ 第2回 ひよこ時代～出生後のあらたな生活～** 参加費無料・申込不要

内容：①今、子どもが生まれるということ～出生前診断、母体保護法、新生児集中治療、医療ケア児について考えてみる～
／埼玉医科大学総合医療センター 小児科(新生児部門) 教授 加部 一彦 氏
②小児在宅医療の実際
／あおぞら診療所高知潮江 所長 松本 務 氏

場所：高知医療センター 2階 くらしおホール
時間：14：00～17：00
対象：興味を持つ人すべて



お問合せ：産科 科長 永井 立平
TEL.088-837-3000(代)
第3回は3月28日(土)に予定しています

1/18 (土) **第10回 高知医療センター 看護実践発表会 共に学び成長する私たちの看護 ～いきいきと働き続けるために今できること～** 参加費無料・当日参加可

内容：基調講演・看護実践発表会
基調講演講師：育ちの支援オフィス かんごの木 代表 新納 美美 氏
場所：高知医療センター 2階 くらしおホール
時間：13：00～16：30 / 対象：医療関係者

お問合せ：看護局 有澤・佐野・川田 TEL.088-837-3000(代)

1/29 (水) **新春特別 高知県がん生殖医療セミナー** 参加費無料・申込不要

内容：小児・AYA世代がん患者に対するがん・生殖医療の実際と課題
－医療連携ネットワーク構築に向けて
講師：聖マリアンナ医科大学 産科婦人科学教授 鈴木 直 氏
場所：高知医療センター 2階 くらしおホール
時間：18：30～20：00 / 対象：医療関係者

お問合せ：総合周産期母子医療センター長 林 和俊
TEL.088-837-3000(代)

1/19 (日) **第56回 高知医療センター 地域医療連携研修会** 参加費無料・申込不要

内容：①がんと放射線、放射線治療 / がんセンター長 西岡 明人
②最新の高精度放射線治療システムの紹介
／放射線治療専門放射線技師 横田 典和
③放射線治療の看護について
／がん放射線療法看護認定看護師 前川 真弥

場所：高知医療センター 2階 くらしおホール
時間：14：00～15：40
対象：県民・市民の皆さま、医療関係者の皆さま

お問合せ：地域医療連携室 TEL.088-837-3000(代)

※時間等、変更になる場合もございますのでご了承ください。みなさまのご参加を心よりお待ちしております。

編集後記

謹んで新春のお祝いを申し上げます。私事ですが、今年、尾張から土佐に嫁いで干支を一周します。若い頃は高知に関わりのない生活を送る一方で、幕末の坂本龍馬の生き方や坂東眞砂子の世界観に魅了されていました。今では彼らの土台を育んだ土佐の風土にどっぷりはまって暮らしているのも何か不思議な縁を感じます。それぞれの縁で高知に引き寄せられた人々が、地元の人々と繋がり高知を盛り立てる動きが活発になっている昨今。私もこの地でお世話になった人々に少しずつでも恩返ししていきたいと思う今日この頃です。今年も土佐人の豪快なエネルギーで高知医療センターはもとより高知が益々活気づく一年になりますように。(地域医療センター SW 竹村)



令和2年1月1日発行
にじ1月号(第171号)
毎月発行
編集者：広報委員会
発行者：島田 安博
印刷：株式会社 高陽堂印刷

発行元：
高知県・高知市病院企業団立
高知医療センター
〒781-8555 高知県高知市池 2125-1
TEL:088(837)3000(代)